

連載…

モンテッソーリ教育ってなあに？

No. 8

2012年12月

「ことばの敏感期」

人間だけが持っている特別なものは「ことば（言語）」です。

子どもには、言葉に対して一番敏感に反応し、苦勞せずに喜びと共に自然に習得できる時期があります。

この敏感期の中にいる子どもは、大人が外国語を意識的に覚えようとするのとは違い、話す人と暮らしていれば、自分の身近で使われている「ことば」が何であろうと、教えこまなくても、その言葉の機構（主語＋述語の関係など）を築いて話すことができるようになります。

「ことばの敏感期」にある子どもに、私たち大人は、洗練された言語と、豊かな語彙のある環境を与えてあげること、子どものうまく言えない心をくみ取ってあげること、大人同士が正しい美しい会話を心がけ、お手本となることが大切です。

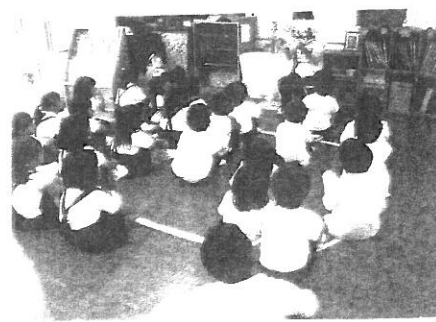
言語のプログラムとして、話しことば と 書きことば に分けられます。

上手に話すためには、まず、ボキャブラリー（語彙）を増やすことから始めなければなりません。

<話しことば>

- たくさん会話をする
- おはなし
- 色々な手あそび・うた
- 絵本の読み聞かせ
- 劇あそび
- 絵カード

清心幼稚園の子どもたちも、手遊び、絵本、おはなしなど・・・とても大好きで、喜んで行っています。



☆絵カード

目的…語彙を豊かにする、発音の指導、
分類による秩序感の助成、読む練習

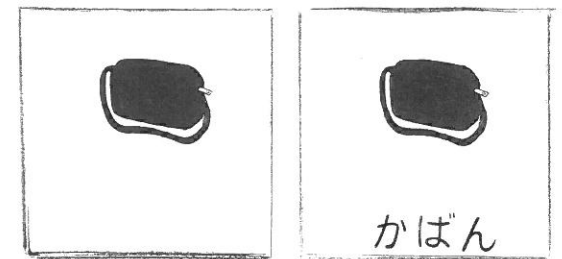
年齢…2歳半～

教材…環境にあるものの中から、身につける物、
野菜類、動物など科学的に分類されたもの。

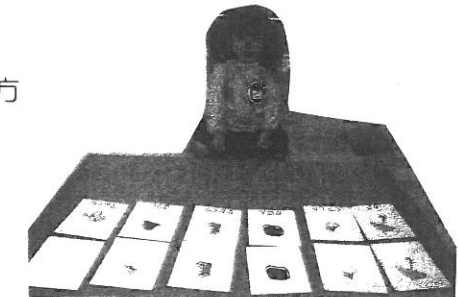
○14cm四方の大きさのカード（1つの分類に6枚ずつ）

○同じ絵を2枚ずつ用意（一方には名前をつけ、もう一方は名前なしのもの）

○3cm幅の名前だけのカード



かばん



方法

- ①名前付きのカードを1枚ずつ子どもと会話しながら物と名称を結びつけながら横1列に並べて行く。
- ②名前なしのカードを出して、1枚ずつ先ほど並べたカードの中から同じ絵を探して、そのカードの下に並べていく。
- ③名前だけのカードを使って、同一性を探す。
- ④間違い・訂正の要素も含めて、カードの文字を読む。

☆1つのシリーズを終えると、また別の絵カードを持ってきて、楽しみながら、たくさん言葉を覚えていきます。

<書きことば>

☆鉄製はめこみ

文字を書くための準備として手首を柔軟に動かす練習をします。最初は枠を使って一筆で形を書きます。上手になったら枠をずらして連続で形を書いたり、はめこみ形を使って幾何的な図案を作ったり、線を書いたり、塗ったり、色えんぴつを使ってたくさん活動します。



☆彫文字

ひらがなが彫られた板と鉛筆のような棒がセットになっています。彫ってあるところを棒でなぞりますが、棒は鉛筆を持つ練習にもなるので、ここで持ち方を覚えます。手首の動きや、棒を持つ指の加減を繰り返しながら自然と身につけることができます。

